



写真1—34 ミツバベンケイソウ



写真1—35 ヒモヅル

ミツバベンケイソウ イワシデ林の林下に生える多年草で茎（ベンケイソウ科）の高さは三〇〜六〇^{センチ}、多くは斜上している。好石灰地植物で生育は石灰岩地に限られている。葉は名前からすると三輪生と思われるが、実はほとんどが対生で、時に三輪や四輪がある。花は九〜十月に咲き淡い緑白色（絶滅危惧 I B 類・福岡県）。

ヒモヅル

（ヒカゲノカズラ科）

勝山町に隣接する行橋市御所ヶ谷に自生する珍しい常緑のシダ植物。福岡県で唯一、日本の最大の群生地^{（約五ヘクタール）}にわたって分布している。茎の主軸はつる状に長く伸び、はじめ地面を這い、のちに立ち上がってコナラを中心とする樹木によじのぼり、高さは七^{メートル}に達するものがある。小枝は分枝して垂れ下がる。胞子のう

穂は細長い円柱状で径約三^{センチ}、長さ一・八〜四^{メートル}、小枝の先に一〜三個上向きにつき黄緑色（絶滅危惧 I B 類・福岡県）。

七 勝山町の大木

町内のかつての自然林は一九四〇年代から五〇年代にかけて伐採されたために山地には大木はほとんど存在せず、平野部に散在する古墳や神社の森に多少残っているにすぎない。全国的な傾向であるが、本町でも昔から大切に守られてきた鎮守の森の一部又は全部が近年伐採されてスギやヒノキの人工林に置きかえられているのは残念なことで、おそらくかなりの数の大木が伐採されたことであろう。

現在、大木がまとまって存在する個所は箕田の扇八幡古墳や御手水の大祖神社などで、前者ではツブラジイやイチイガシ、後者ではクスノキやツブラジイなどが見られる。

ふつう、幹の地上一三〇^{センチ}の所の周囲が三^{メートル}以上のものを巨木と呼び、五^{メートル}以上のもは特に巨樹と呼ぶことがある。町内の巨木は表1—6に示したとおりであるが、町内を隈なく調査したとは言い難く、他に何本かの巨木があるものと思われる。幹の周囲が五^{メートル}を超す巨樹は上矢山のムクノキと宮原のヤマザクラだけであるが、ほかに巨木に該当する樹木は六種、一〇本が発見された。また、あまり大きくないが珍しい樹木として上矢山のケンボナシをあげることができる。

表1—6 勝山町の巨木・銘木

種 類	胸高囲(cm)	樹高(m)	所在地	備 考
ヤマザクラ	507	19	宮原	通称千女房の山桜 根まわり473cm、町指定天然記念物
ムクノキ	503	30	上矢山 観音堂	根まわり755cm 根元はかなり朽ちている
シイノキ	412	20	〃	
	478	17	御手水 大祖神社	3本株立ち、ツブラジイ 高さ60cmで測定
	440	25	箕田 扇八幡古墳	1本立では最大、一部空洞、スダジイ
タブノキ	432	18	御手水 大祖神社	ツブラジイ
	416	20	上河内	スギ造林内
イチイガシ	405	30	大久保 大原八幡神社	
	324	33	箕田 扇八幡古墳	
イチョウ	401	45	御手水 宝積寺	メス木
クスノキ	385	35	御手水 大祖神社	
	310	25	大久保 大原八幡神社	
ケンボナシ	218	23	上矢山	中山キク子宅

千女房のヤマザクラ
宮原の障子ヶ岳登山口より三〇〇メートル障子ヶ岳側に入った所にある。桜の巨樹で胸高周囲は五〇七センチ、幹は高さ約一五〇センチの所から三本に分かれ、それぞれ基部で八五・八五・六〇センチ。根まわりはやや小さく四七三センチ。樹高は約一九メートルで枝は円く傘形に広がって東西に二四メートル、南北に二六メートル。これまで県下で最大とされてきた添田町の吉木のヤマザクラを凌ぐ大きさで、樹勢の強さや全体の姿などでははるかにすぐれている。花期は三月下旬から四月上旬。ヤマザクラであるから花期にはうす茶色の葉も展開しはじめているが、花の数が非常に多く全体として白く見える。本町の銘木の筆頭で大切に保護しなければならぬものである。



写真1—36 ヤマザクラ（千女房の山桜）

観音堂のムクノキ

上矢山の集落の中の坂道を上って行くと観音堂がある。ムクノキはお堂の右上方約一〇呎の所にあるが周囲はモウソウチクの林になっていて見にくい。木の胸高周囲は五・〇三呎であるが、根元は広がっていて根まわりは七・五五呎ある。しかし、朽ちた部分が多い。写真は斜面上方ウメ、カキ、クリなどの果樹園から三月に写したものでまだ葉が出ていない。

扇八幡古墳の
スダジイ

扇八幡古墳は全体が樹木に覆われている。しかし、高木と亜高木が残されているだけで低木はみな伐採されている。高木の主な種類はスダジイ、ツブラジイ、タブノキ、ヤブニツケイ、シラカシ、イチイガシ、ナナメノキ、ヤマハゼ、エノキなどである。スダ



写真1—37 観音堂のムクノキ



写真1—38 扇八幡古墳のシイノキ

ジイの巨木は墳丘の南端にあつて胸高周囲四・四呎、樹勢は比較的よいものの高い所まで腐朽が進んでいる。町内にはほかに御手水の大祖神社の境内にシイノキの巨木が数本あるがこれらも朽ちて中空になっている。

上河内のタブノキ

スギ山の中にある。スギ植林の際あまり大きいので切らずに残されたもので、胸高周囲四・一六呎、高さ一・五呎あたりで水平に大きく枝分かれ

していて枝張約四〇呎の堂々たるものである。平成三年の台風で大枝の一本が落ちるまではもっと大きかった。



写真1—39 上河内のタブノキ

大原八幡神社の
イチイガシ

神社の木はほとんどが伐採されてスギやモウソウチクの林に変わってしまった。わずかに神殿



写真1—40 大原八幡神社のイチイガシ



写真1—42 大祖神社のクスノキ

写真の石門から左に進み石段を上った。現在、石段は使用されず、そこは珍しいコンテリクラマゴケに覆われている。また、石段の右上には



写真1—41 宝積寺の大イチョウ

平成三年の台風により上部の主要な枝を失くしてしまった。雌木で秋にはたくさんの実を落とす。宝積寺の参道は以前は

の周囲にクスノキ周囲三・一畝、カゴノキ一・三九畝、ナメノキ一・五八畝、イチイガシ二・七一畝、二・五八畝、二・一九畝などがあるだけである。ここに取り上げたイチイガシは拝殿の前の広場の左手にあるもので胸高周囲四・〇五畝、高さ約三〇畝、真っ直ぐ伸びている。なお、神社にあるイチイガシの大木はどれも植えられたものである。

宝積寺の大イチョウ

菩提にある宝積寺の前庭の北の端にあつて胸高周囲四・〇一畝、高さ約四

五畝の大木であるが

平成三年の台風によ

り上部の主要な枝を

失くしてしまった。

雌木で秋にはたくさ

んの実を落とす。宝

積寺の参道は以前は

写真の石門から左に

進み石段を上った。

現在、石段は使用さ

れず、そこは珍しい

コンテリクラマゴケ

に覆われている。ま

た、石段の右上には

直径約五〇^{センチ}のイロハモミジが大きく枝を広げており、鐘樓の近くには直径二八^{センチ}のアスナロの木もある。

大祖神社のクスノキ

急な石段を登っていくと広い境内をもつ大祖神社がある。クスノキは石段に

近い斜面にあつて周囲三・八五畝、高さ三五畝。しかし、県内の神社にあるクスノキとしてはまだ小さなものである。神社林はここでも伐採されてヒノキが植えられているが、社殿の右側の一角ではシイノキ、アラカシ、イチイガシなどの大径木を残した部分がある。

上矢山のケンボナシ

昔は方々にあつたといわれているが、今では希少な植物である。所によつて

はテンポコナシなどもよばれる。クロウメモドキ科の高木で社寺に植えられていることが多い。上矢山の畑地の隅にあるが、写真は三月に写したものでまだ葉が伸びていない。木にはキツタが巻きついていて、秋に花序の枝が肥厚して肉質にな



写真1—43 上矢山のケンボナシ

り、かむと独特な風味と甘味があり食べられる。子供のころに口にしたことのある人も多いと思われる。